

# 南砺市クリエイタープラザにおけるプレイスメイキング

団体名 ● 石川美澄ゼミナール / 代表者名 ● 石川美澄 (経済学部経営学科・准教授)

## はじめに

南砺市クリエイタープラザ (以下、桜クリエとする) は富山県南砺市にある公共施設の1つであり、一般社団法人地域発新力研究支援センター (以下、PARUSとする) がその施設管理を担っている。桜クリエは、東海北陸自動車道の桜ヶ池ハイウェイオアシス (城端 SA) 内に立地しており、高速道と一般道からアクセスできる交通・観光の拠点施設としてその活用が期待されている。しかしながら、その潜在的な価値が十分に活かされているとは言い難く、施設側は認知度の向上や新たなサービス・商品の企画・実施等に乗り出している。

そこで、石川美澄ゼミナールの研究テーマ「移動・交流の視点から『まちの拠点的な場所』の諸問題を考える」を活かして、PARUSと連携することとなった。具体的には、専門ゼミナール I, II (正課) では学生一人ひとりの「好きなこと・もの」を起点に、イベント企画や新規事業を提案し、地域貢献活動 (正課外) としてそれらを実践するという方法を採用した。イベント等の実現に至ったのは3案中2案だった。

なお、活動名にあるプレイスメイキングとは、都市デザインにおける理念の1つである。「都市」ではない南砺市桜ヶ池エリアにプレイスメイキングの考え方を援用することの是非はともかく、本活動では公共空間・公共施設をより自由に使い、個々人が楽しいと感じられる場の創出を目指した。

## 活動内容

2021年度は、桜クリエのピロティに設置されたこたつに入りながら金沢と南砺のグルメを楽しむイベント「まんでうまいもん!!こたつで食べまっし!!金沢おでん×城端麦酒」と、謎解きと展示会を掛け合わせた「さんかく屋根と秘密のお茶会-見て・触れて・考える-謎解き×展示会」という2つの活動を実施した (表1, 2参照)。

表1: 食べるグループによるイベントの概要

項目	内容
開催日時	2021年12月11日(土) 第1部 12:00~14:00 第2部 17:00~19:00
開催場所	桜クリエのピロティ
募集人数	各部、最大12名(1グループ2名様から予約可)
告知媒体	Instagram、Twitter、ポスター掲示等
予約方法	Googleフォームを利用
その他	完全予約制
参加費	①アルコールコース 1人当たり2,000円 ②ノンアルコールコース 1人当たり1,700円
参加者数	第1部 5組11名、第2部 5組9名

出典: 石川 (2022) の表2を基に筆者作成

表2: 謎解きグループによるイベントの概要

項目	内容
開催期間	2022年1月10日(月・祝)~2月14日(月)
開催場所	桜クリエのアトリエとカフェおよびホール入口
参加費	無料
参加方法	開催期間中、アトリエにて「招待状(解答用紙)」を取る。最後の問いの答えが分かったら、招待状を桜クリエ事務局へ提出する。
告知媒体	Instagram、Twitter、ポスター掲示等
その他	全問正解者にはカフェで利用できる「無料お茶会セット」をプレゼントした(提供:カフェトリアン)
参加者数	正確な参加人数は不明。 全問正解者は32組(2022年2月15日現在)。

出典: 筆者作成



写真1: イベントのポスター

## ①食べるグループによるイベントの結果と考察

食べるグループ(学生7名)によるイベントは、予算の都合上こたつのレンタル台数に制限を設けたことや感染症拡大防止対策を講じる必要があったこと(例：相席不可)、おでん種の大量仕入れが困難だったこと等の理由から、完全予約制・2部制とした。

その結果、第1部は5組11名様、第2部は5組9名様参加があった。参加者の年齢層は20～50歳代であり、居住地は金沢市や南砺市、かほく市、小松市、中能登町、富山市、高岡市、入善町等だった。参加者とPARUSからは、「面白いイベント」「来年も開催してほしい」「毎年恒例のイベントになるとよい」という好意的な意見を聞くことができた。

一方、学生にとっては、イベント会場で流す音楽や映像に対する権利上の制約、保健所への届け出、仕入れ交渉やイベント告知、予約管理等々、学び多き時間となったと思われる。



写真2：食べるグループの学生と第1部のイベントの様子

## ②謎解きグループによるイベントの結果と考察

謎解きグループ(学生3名)のイベントは、いわゆるまち歩き型の謎解きゲームと、学生が作製・制作したアクセサリ等の小物やイラスト(以下、自作アイテムとする)の展示会という2つの異なる要素を掛け合わせたものである。本イベントは、桜クリエのアトリエに自作アイテムを展示し、それらに関連する「謎」を作問した点に特徴がある。また、イベントポスターや招待状(解答用紙)も学生が制作したものであり、オリジナリティの高いものとなった。

参加者は、当日桜クリエのアトリエに行き、受付テーブルに置かれている招待状を取り、謎を解いて

いく。このような仕組みのため、学生も施設スタッフも常時アトリエにいる必要はなく、約1か月にわたる開催期間中もマンパワーに悩まされることはなかった。

なお、参加者アンケートによれば、参加者の大半は南砺市や高岡市等の近隣市町村の住民だった(図1参照)。また、参加者の年齢は小学生から50歳代と幅広く、親子で謎解きに挑戦したケースも複数確認された。本イベントについても好意的な感想・意見が多く寄せられ、特にPARUSから高い評価を得た。



写真3：謎解きグループの準備の様子

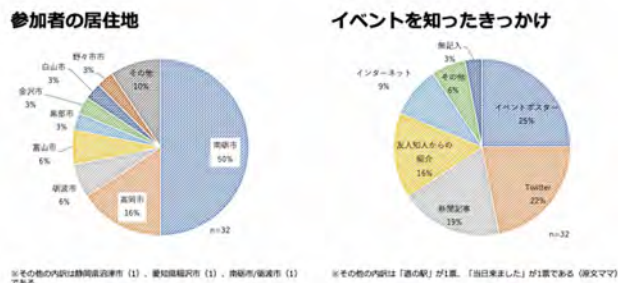


図1：謎解きイベントの参加者アンケート結果(一部抜粋)

## 今後の課題、展望

今後の取り組むべき課題としては2点あり、第一に正課と正課外の活動を有機的につなげる方法を検討すること、第二にイベント開催以外の地域貢献活動のあり方を検討することである。

謝辞：石川・富山県内の事業者の皆様、ポスター掲示等にご協力いただきました皆様、PARUSのスタッフの皆様から感謝申し上げます。誠にありがとうございました。

付記：本稿の一部は間野山研究学会学会誌『間野山研究』に掲載予定の以下の拙稿を、本報告用に大幅に加筆・修正したものである。石川美澄(2022)「南砺市クリエイタープラザにおける大学生による地域貢献活動に関する報告ーイベント「まんでうまいもん!!こたつで食べまっし!!」を事例にー」『間野山研究』第3号、ページ数未定(未刊行)。